



2021年 10月 館岩自然の教室

太田小学校発達障害・情緒障害通級指導教室「かがやき」

コスモスの よく動きある 花の数 高浜 虚子

金木犀の香りがそこはかとなく漂い、青空にコスモスの花が映える季節となりました。かがやき担当・坂本、来週24日から26日は「たかつえ自然の教室」へまいります。山はもう秋景色、5年生とともに紅葉を楽しんできたいと思います。

さて、今号は、望ましくない行動をとる子について、その子の発達特性から考えてみます。

2学期末グループ学習・保護者懇親会

「かがやき」では11月30日（木）、12月1日（金）に、2学期末のグループ学習・保護者懇親会を実施します。今回は、「パンケーキ作り」を行います。詳しくは、別紙のお知らせをお読みください。「かがやき」に通うお子さん、保護者の方が集まる数少ない機会ですので参加のほどよろしくをお願いします。

「スクリレ」アプリ登録をお願いします

12月以降太田小「かがやき」も「スクリレ」を利用して、月予定などのお便りの配信を行います。「かがやき」に通うお子さんの保護者の方、お子さん、担任の先生は、別紙をお読みいただいて登録をお願いします。



お子さんのなる気になる行動

「かがやき」に通うお子さんの困りごととして、左の吹き出しに書かれたような行動が上がる場合があります。

落ち着きがない
暴言、暴力、かんしゃく持ち
だらしない、落とし物が多い
姿勢が悪い、ならんで歩けない
持っているものを振り回す
手いたずらがやめられない
片付けができない
行動が乱暴



どうしたらいいの

背景に、「感覚の未熟さが含まれることが多い」を理解して

お子さんがやろうとしないので、ついつい「きちんとしなさい」と言いたくなりますが、「やらない」のではなく、「できない」のかもしれませんが。外からの情報を受け取る感覚「五感」が未熟

なことが原因かもしれないのです。また、「きちんと」するとは、どうすることなのか理解できていないかもしれません。「五感」というと、一般的には「視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚」ですが、発達特性を考えると大切にするのは、「視覚・聴覚・触覚・固有感覚・前庭感覚」の「五感」です。なじみの薄い「固有感覚と前庭感覚」についてまずお話しします。

固有感覚と前庭感覚

「固有感覚」とは、いわゆる手ごたえの感覚のことです。筋肉や腱の中のセンサーによって関節の曲がり具合や筋肉の収縮の程度を感知する感覚です。「固有感覚」が発達していないと次のようなトラブルが発生します。



動作が大きく、乱暴
まねが苦手
声大きい
物をこぼす
適度な筆圧で書けない



おちつきがない
じっとしてられない
ボールが怖い
転びやすい
けがをしやすい
眼球運動が未熟

「前庭感覚」とは、いわゆるバランス感覚です。重力の方向をキャッチし、姿勢を保ったり、バランスをとったりします。眼球運動に関与しています。「前庭感覚」が育っていないと、左のようなことが起きがちです。動いているものを捉える視覚と結びついています。

「かがやき」に通うお子さんの困りごとは、感覚の育ちの未熟さが原因のことがあること、「やる気がないのではなく、できない」でイライラしたりふざけてごまかしたりしていること

があります。こういったことを理解してもらうことが支援となります。学校・学級では、できないことをできるようにするための支援をするのではなく、できないことをハンディと認めて、援助の策を講じることが必要です。例えば、気が散りやすいお子さんに、カーテンで覆いをして目に入るものを減らしたり、イヤーマフをつけて雑音を減らしたりする環境調整を行う支援です。

「かがやき」では、お子さんが自分の特性を理解する手助けをしています。また、体や目の動きをコントロールする力を高め未熟な感覚の発達を促すための「体のエクササイズ」や「ビジョントレーニング」、困った時にどのようにしてSOSを発信したらよいかを考えるSSTなどを行っています。

スポーツの秋、お子さんの困りごとを感覚の面から考えてみてください。お子さんを理解することは、支援することです。

